

## 第 18 回 新木地区地域会議 議事録

令和 3 年 10 月 24 日(日)

■開催日時: 令和 3 年 10 月 24 日(日)10:00~12:00

■開催場所: 新木近隣センター 多目的ホール

■議題: 「新木地区の防災」について(その 2)

- ・ 自助・共助(近所)・公助の助け合いの行動意識を持つには
- ・ 自治会を中心とした、防災活動のあり方

### ■議事

#### <はじめに>

- ・ 地域会議事務局長 挨拶
- ・ まちづくり協議会会長 挨拶
- ・ 我孫子市役所市民生活部長 挨拶

#### <グループ討議>

##### 【1 班】

- ・ 皆さんの協力により、買い物支援として移動販売が実現した。まちづくり協議会は、情報の提供を行い広がり輪を広げる。自助/共助を習慣化、声をかけ続けることが大事。自助(一人一人)が共助になる。
- ・ 出席して自分の知識を高める。家では常備するもののことを話している。
- ・ 台風などの備蓄の一環として、車のガソリンを満タンにするようにしている。我孫子市のメールサービスを利用している。自治会の会報に自助の仕方を掲載、注意喚起をしている。見守りネットワークの活用で、安否確認をしている。個人情報関係で役員も民生委員も自分で歩かないと情報につかめない。自治会で仕組みを作ることに苦労している。
- ・ 個人情報は市からももらえない。メリット/デメリットを考えて(提供するかどうかを)判断してほしい。
- ・ 長崎の災害について発言があった。
- ・ エンジョイ新木野にて、病院送迎や買い物などを有料で実施しているが、ボランティアが支えている。災害が発生しても、86 歳で歩くことができなくなっている。創価学会の会館を避難場所に使用できないか。避難所には、車いすの置き場所も確保してほしい。
- ・ (グループホームへ)認知症の人が 9 名入所。災害時の防災強化、資料の作成を行っている。自分の施設で対応するが、マンパワー/物資/職員が施設に来ることができるか、が心配。食料は 2 週間分を備蓄している。電気/水道の故障は、命に係わる。半日水が出ない(手も洗えない)ことを想定して、訓練してみたい。
- ・ 防災は自治会が第一に対応する。ボランティアが不足しているのか。

- ・自治会員が少ない(62 世帯)ので、まとまりがある。成田線が便利にならない。地震は予測が困難。頭は 20 代、体は 60~80 代になっており健康に注意している。自助中心、共助は余裕があれば。将来的に女性が残る(長生きする)ことが多いが、家族で防災についての会話が少ないので機会を作りたい。世の中は便利になるが、デメリットも増えてきたと思う。
- ・自治会ではコミュニケーションが難しくなっている。近所付き合いがない、相手のことが分からない。
- ・自分の家が大丈夫のときは、動かないことも大事。高台でも安心ではない。避難が長引けば、食料などが届かないこともある。自助を優先する。新木小学校の周辺は道路環境が悪い。10 月 7 日の地震の時に、小学生を早期下校させていたが、迎えの車で道が渋滞し大混乱していた。事前に環境整備や準備も必要。

#### <まとめ>

- ・自分のことは自分で守る。
- ・近隣の確認、目配りが必要。
- ・備蓄をする。

#### 【2 班】

- ・災害弱者をどう導いていくか、共助/公助がはっきりしていない。基本法では自治体任せなのでその点を市に確認していきたい。
- ・自然災害もあるが、ブロック塀の倒壊、立木の倒木などにも注意する必要がある。
- ・虹の家は川に近いので利用者をスタッフがどういう形で対応したらよいかいつも考えて、地域の防災訓練にはいつも参加しているし地域の協力も期待している。
- ・共助としての中学生のかかわりについて、体格的には中学生も大人と同じなので共助に中学生もかかわりを持っていくようにしていきたい。
- ・上新木地区は昔ながらの地域。50 数世帯程度で老化も進んでいる。高台のためか防災に疎いところがある。弱者への共助が必要になるが新規の方たちと接点がなく、今後はコミュニケーションを増やしていきたい。
- ・14 世帯程度の構成だがほとんど高齢者で家族も別居しているため災害時の共助は無理、自助しか期待できない。災害時の集合場所は決めており、回覧なども手渡しをするなどコミュニケーションはとっている。
- ・南新木では新しく入ってくる方は若い方が多いが高齢者も多い。災害弱者は高齢者だと思い、防災倉庫は 2 つあるが全所帯の分の備蓄は無理なので、高齢者対応として備蓄している。共助については班長レベルの分担体制をとっている。出来ることから対応していけばよいのではないか。
- ・新木野では見守りネットの活動があつて被支援者を協力者が支援する体制をとっているが、実際に災害時には自分を守ることが第一で最初から共助を期待しない方がよい。

- ・あらかし野では災害というと水害が一番の脅威となっている。自治会の防災組織は毎年メンバーが変わってしまうのでうまく機能しないので、常設の防災委員会を立ち上げて今後の活動を充実させようとしている。
- ・各自の防災に対する意識が薄いのではないかと、他人事のように考えている。意識をもって自助ができなければ共助もできないそのためには具体的に考えてもらいたい。

#### <具体的な災害に対しての意見>

- ・防災情報は地震を除けば事前にわかる。情報を出す方はどのように発すれば分かってもらえるか考えていると思うので、受ける側もどれだけ雨が降ったらどうなるかよく考えて行動するべき。スマホやテレビ等の情報を有効活用して危険情報が出たら早めに避難するべき。
- ・避難ができる対応、坂道が急であれば緩い勾配にするなど公助で対応してもらおう。
- ・防災訓練も通り一遍のものではなく、もっと具体的な状況に即した訓練をやったらどうか。
- ・新木野は住居が密集しているから家財が発生すると怖い、道路を整備するなど共同訓練を繰り返しやって問題点を割り出し、公助に結びつけていきたい。
- ・防災組織をもっと充実させて問題点を具体的に要望する。そのためには防災会議等を重ねて、自助・共助する上での対応を協議する。

#### <2 班まとめ>

- ・(自助について)災害情報を順次取り入れて早めに行動する。
- ・(共助について)防災組織を整備して、各地域の特性も考え避難する上での問題点を割り出し、解決策を公助に要望する。例えば道が狭くまた坂道も急なところでは避難することが非常に困難なので、道路を広く整備してもらおう事や勾配の緩い道に改造してもらおうなど。
- ・(公助について)自助・公助する上で必要な改善策を具体的に示し、対応してもらおう。

#### 【3 班】

- ・車いすの置き場所が偏っているので置き場所を分散し、分かりやすくしたい。
- ・水確保といった地域的な戦略の話と、日常生活での防災に対する意識的な戦略の話がある。日頃思うのは、日常的に防災に対する意識を高めたい。例えば炊き出しなど一度やってみても良さそう。この地域は細長い形状ため、連絡網を作りづらい。地域 FM 放送を作っていくような運動があっても良さそう。
- ・(自治会での)防災訓練は年に 1 回。水害と地震でも避難経路が変わってくる。年に数回は訓練したい。
- ・地震や火事は突然だが、水害は事前情報が得られる災害である。情報収集の訓練などテーマを絞って年に数回行うことで意識も高められると思う。
- ・水害については、どの地域でどのくらい危険度があるのか、情報を調べておくことが大切

だと思ふ。水位はいきなり上がるのでそのような情報は大切。

- 若い方とのコミュニケーションが難しい自治会が多い。情報を伝えるのは難しい。回覧板は見ない方も多い。デジタル化は便利だが端末を持っていない方もいる。情報がないといざというときに慌ててしまう。なんとか人をまとめて幅広く情報伝達する方法はないか。
- お互いの顔がちゃんと見えることが大前提だと思う。コロナ禍で組織のつながりが弱くなっている。防災訓練もなかなか人が集まらない、難しいけどどうやって行くかを考えたい。各自が情報に触れて危険性を把握することが大事。
- 防災の日常化が必要。日常で防災に少し目を向ける習慣をつけると、いざというときに役に立つと思う。ハザードマップは年中目を通すようにしている。利根川が決壊した場合、新木3丁目や4丁目は10分しか余裕がない。一昨年の台風では気象台公園に60台の車が集まった。水害は必ず事前情報があるので、一人暮らしの方などに情報を伝える経路を話し合っておくとずいぶん違う。車いすの把握として、ふらりえ新木野で9台、自治会の開館に1台、虹の家に数台。管理が大変。1年たてばタイヤの空気も抜ける。このため分散は難しいかもしれない。
- 日常で防災に対する意識はとても低そう。防災無線があったら誰かに聞く、といった感じ。ご近所で話すにしても、皆が他人任せになっている感じもする。自助/共助は必要だがどこまでできるだろう。
- 間接的ではあるが、地域コミュニケーションを高めることが地域の防災意識を高める役割として非常に大きい。
- (利根川上流の)渡良瀬貯水池の調整池放流を見学してきた。深さ数十mが全部埋まり、あふれる分を放流していた。実際に見て水害は予測できることが実感できた。防災意識と訓練の日常化が大切。まち協でも発電機を2台用意し、先日使ってみた。定期的を使用することが必要。
- 車いすについてだが、(新木近隣センターへの)坂道を一人で押すのは厳しい。2名一組が必要。
- 見守りネットワークで意見を聞いたことがある。まず自分と家族の命を守る。そのあとが共助である。声掛けがやっという方が圧倒的に多い。
- 水害の場合は車いすの利用は厳しい。地震の際には出番がありそう。それも一旦収まってからであろう。
- 実際に前回の台風で、車を非難するために気象公園に車を持って行っている方が多かった。実際には建物がない(気象台公園のような)ところは避難所にならない。創価学会の会館は車が200台置ける。
- 実際には災害時に避難する場所がきっちり決まっているわけではない。災害の種類によっても避難場所が変わる。
- 備蓄品は、新木小と気象台公園にある。
- あらためて考えると、水害と地震は避難の仕方や対応も異なると思うが、分けて訓練した

- りすることは少ないのでは?実際の訓練は、地震や火事を想定している事が多いと思う。
- ・学校では定期的に災害訓練を行うが、意識づけを行うという意味でも大きいと思う。
  - ・各自で情報が入ったらどんな行動をするかをイメージする訓練をすることも必要と思う。一番大切なのは、各自に自覚してもらうことだと思う。
  - ・備蓄品を使ったり、車いすを使ったり、そのような訓練を実践することで備品や車いすの整備にもつながる。
  - ・例えばまち協のイベントの中でも、防災に関するエッセンスを少しでも入れていくといいと思う（料理教室で少しだけ防災に関するお話も入れるなど）。
  - ・子供のころに水害の経験をした。晴れ上がって安心してから、水がきた。堤防が決壊してから 10 分しか時間がなかった。安心していう状態でのあつという間の出来事だった。
  - ・茂原で水災の経験をした。訓練もしてなかったのが、かなり大騒ぎだった。ボランティアは何かあってから集める。日常的にボランティアセンターを設置しておく、必要な時に動きやすいのでは。ボランティアも何を手伝えればいいかが分からない。経験者がいると全然違う。
  - ・ボランティアでは、軍手や食料、スコップなどを持参。センターを設置して、割り当てを行いお手伝い部隊として派遣される。地域や災害の規模、段階によっても異なる。

#### 【4 班】

- ・現在、在宅支援中。80～90 代が主な人たちである。特に高齢独居生活者の多くが、災害時にどうなるかの不安を持っている。公助の面でできることは、地域でこれらの人たちをどう助けるかの工夫をすることだと思う。地域で見守ること、そのためにできることを実践していきたいと思う。私たちは災害時に、高齢者を誰でも受け入れることにしている。また高齢者が益々ふえてくるので、空き家対策も重要となる。自治会でどう対策をとるか、共助を考える時期が来ていると思う。
- ・我孫子市では、来年度からコミュニティースクール化を目指しているので、地域とのつながりを大切にすることが課題。しかし、挨拶や見守り活動などで、不審者情報として上がったたりする難しさが、経験しながら改善していくしかないと思う。
- ・自主防災組織の充実が必要だが、現実には高齢化で難しい状況。従って「自助」をどう手助けするか、災害が起きる前にどう準備しておくかに重点を絞り検討する必要があると思う。ヒトモノカネをここに集中することも必要。
- ・(コホミンは)年間何百というサークルが利用しているが、中には独自の考えをもっている方もいる。例えば、災害時に自分の判断だけで行動をする、館内指示を待たない/従わないと公言する人もいた。このように様々な考えがあるので、一概に正論だけで論じることができないという面も考えておく必要がある。
- ・知己の見守り活動もしている。自宅は子供 110 番の家にもなっているので、子供たちにトイレを貸、話す機会が多いと思う。ちょっとしたことで飛び込んでくる子供もいる。理由

を聞くと、子供の理解を超えていることがあり、丁寧に説明すると理解してくれる。大人の場合はなかなか自分の判断が正しいと思込みがある人もいて、対応が難しい現実があり、試行錯誤して悩んでいる。

- 独居老人や高齢者夫婦が多く、孤独死もあった。自治会の中での高齢者の住居や家族構成、助けの有無などを把握したいのだが、なかなか難しい現実。江蔵地は利根川のすぐ横なので、河川氾濫時はなすすべがないと思う、地震や火山噴火なども想定したそれぞれの対策を考えておく必要があると思う。
- 自治会で防災担当をしている。各自治会で防災を担当することの難しさがあると思う。小規模な自治会があったり、一年で役員が交代したりで、防災のような同じ事案が継続できなかったりするので、新木地区全体で防災を担う必要があると思う。自治会単位では、中々ことが進まない現状がある。自治会で防災を担うには荷が重いと考えるので、新木地区全体での防災組織を創り運営していくことが望ましいと思っている。
- 小学生の見守り活動をしている。交通事故が起きると、その直後にはドライバーのマナーが良くなっているが、それをどう習慣化させるかが課題。また登下校中の見守りで気が付くのは、集団登校以外の一人だけの登下校。不審者情報の共有など、この点の対策も必要である。
- 民生委員は高齢者の実態を最も知っている組織。災害時にはこの情報を開示することができるのですが、多くの自治会が活用できる組織や人材を備えていないのが現状である。この課題を改善しなければならない。また長崎の豪雨災害時にあったが、一人の方を助けるために担当民生委員が犠牲になった。民生委員の力には、限界があるということも知っておく必要があると思う。
- 広報部でセンターだよりや、ホームページの担当をしている。数年前に、上新木自治会会長時に防災組織を立ち上げようとしたが、人材不足でできなかった。リーダーになる人が必要で、簡単にはいかないと思う。次善の策としては、防災担当役員を増やし、防災研究や防災訓練を積み重ねていくこと、そして徐々に自主防災組織設立の機運を高めていくことだと思う。しかしなかなか進まないのが現状。比較的实现の可能性があるので、自治会館の防災時拠点化だと思うので、テーマにしていければと思う。
- 現状で地域会議を実践しているまち協は5団体しかない。地域会議の目的は、地域の問題を発表できる場所を提供し、その中で少しずつでも実践できることを進めていくことだと思っている。ここ数年の議論から、カスミの移動販売車稼働が実現した。今防災を再度テーマにしているが、まずは自治会がこの問題に取り組み、防災組織を立ち上げることが必要と思う。その前提として、多くの人が防災に関心を持ってもらうことだと思う。
- 自治会では力及ばずの現実があるので、新木地区全体の大きな組織を創り、そこが自治会と連携し、底上げし動かしていく方法があるという課題が出されたと思う。防犯面でも、地域全体で一時避難拠点を明示するなどの方法が考えられるので、防災・防犯について新木地域全体で検討できる組織を検討したら良いと思う。

- ・そのような組織ができれば最高だと思う。
- ・まずは、新木地区の自治会の防災担当組織・人が集まり、協議していくことからスタートしたら良いと思う。
- ・前回に提案しているが、結論が出ていない現状。まずは地域会議の中に防災担当部署を創り推進していきたい。先ほど話に出ていた自治会に防災組織ができないのに地域会議でできないのではないかと、というのは逆だと思う。ぜひ地域会議で検討してほしい。
- ・これだけ市を動かせることができる地域会議なので、市との連携もうまくいくと思う。私も全面的に参加・協力する。
- ・ぜひ実現したいが、なかなかこの課題が広がっていない現状もある点を認識することも必要。
- ・持ち帰って、こういう話が出たことを会長などに報告・相談する。また、今回配布します「新木防災」に関して意見はあるか。
- ・ハザードマップのQRコードより、災害時の情報を確保できるQRコードを入れて欲しい。
- ・大変よくできていると思う。「まずは落ち着いて」という一言もぜひ入れて欲しい。
- ・私もよくできていると思う。利根川の水位情報が情報カメラで見られるので、こういった情報もぜひ入れて欲しい。
- ・子供110番で経験していますが、新木小児童は礼儀正しく、大変に好感が持てます。注文があるとすれば、子供110番の実績をもう少し知らせてほしい。
- ・毎年一回報告があるが、不審者に遭遇して子供110番家庭に飛び込むことは殆んど無く、水分補給やトイレ利用です。この点大変助かっている。

< 終わり >

- ・我孫子市役所市民安全課長 まとめ
- ・我孫子市役所市民生活部長 まとめ